

2009年度 卒業論文講評

2010年2月 小関 隆志

早川 大貴「中心市街地活性化の現状と課題」

中心市街地の空洞化は「シャッター通り」との言葉に象徴されるように、極めて深刻なものになっています。郊外に大型のショッピングセンターができると、駅前のデパートが撤退し、商店街は寂れる一方。これを仕方ないと捉える人も多い半面、高齢者などが商店街で買い物できなくなり、不便になるという問題が起きています。特に地方では、駅前から店がなくなることで高齢者が新鮮な食材を手に入れにくくなり、健康を害するという「フード・デザート」（食の砂漠化）も指摘されています。

どの地方でも、こうした問題に頭を痛めて、街づくりや商店街活性化に取り組んでいると思われませんが、早川さんもこの問題に真正面から取り組みました。

早川さんは群馬県館林市在住。地元の街を愛する青年です。早川さんは街の活性化に自分も貢献したいと、「下町夜市」の活動に参加しました。詳しくは本論文に譲りますが、「下町夜市」とは商店街の空き地を活用して月に1回開いているイベントです。その中で早川さんも「下町射的」のお店を担当し、人気を博しているとのこと。

卒業論文を書くにあたっては、この「下町夜市」での活動が大いに役立ちました。イベントの主催者の一人でありながら、同時に、このイベントがどのように運営されているのかを観察・分析する参与観察者でもあるという、一人二役をこなしながら論文を書きました。単に文献を読んだだけで得られた情報とは違って、イベント運営や意思決定のプロセスが克明に描かれており、まちおこし運動のダイナミズムが良く伝わってくる内容です。

また、館林市の事例だけでなく、他の自治体（日向市・宇都宮市）の事例も取り上げて比較することにより、まちおこし運動のあるべき姿を検証している点も、優れています。

早川さんは卒業後、地元・館林市の市職員として、まちおこしに大いに活躍してくれるだろうことを期待しています。